

研修機関	コマツ栗津工場
研修期間	平成20年9月29日～10月28日
所属・氏名	小松市立安宅小学校 遠藤 泰久

I 研修目的

- ・企業理念や組織体制、その方策を学ぶ。
- ・工業生産のあり方の見識を深め、今後の授業作りに生かす。

II 研修内容

毎朝、7:55からラジオ体操、そして班ごとに朝礼があり、それから作業に入る。

月 日	内 容
9 / 29	安全教育・・・指導教官の元、協力企業の派遣者2名と工場のKY（危険・予知）等についての講習を受ける。
9 / 30	安全教育・・・玉掛け特別教育、実技、実技テスト、危険体感、法令・筆記テストを受ける。
10 / 1	午前 工場の概要、工場見学、人材育成・人事管理について、環境への取り組みについて講習を受ける。 午後 「モーターグレーダー」（GD）工場に行く。 現場のセンター長、マイスターの人達からモーターグレーダー（GD）とはどんな機械か、工場の概要等を教わる。
10 / 2	午前 マイスターの山崎さんからボルトの締め付け作業の講習を受ける。スパナ、インパクトレンチ、トルクレンチ等の使い方を教わる。 午後 フロントバルブサブで作業する。GDという製品作りの一つを初めて手伝える。
10 / 3	午前 フロントフレームパイピングサブに入り作業する。 午後 リアフレームサブに入り作業する。
10 / 6	午前 フロントアクスルサブに入り作業する。 午後 エンジンサブに入り作業する。
10 / 7	午前 燃料、作動油タンクサブに入り作業する。 午後 ラジエター、SYLサブに入り作業する。
10 / 8	午前 ドローバーサブに入り作業する。 午後 フロアーサブに入り作業する。
10 / 9	午前 フードサブに入り作業する。 午後 CABサブに入り作業する。
10 / 10	ライン前半部分（タンデム乗せ～エンジン乗せ）で作業をする。
10 / 14	ライン中盤部分（タンク Assy 乗せ～ドローバー Assy 乗せ）で作業をする。
10 / 15	ライン後半部分（給油～外装フード乗せ）で作業をする。
10 / 16	CAB取り付けで作業をする。台上前整備について話を聞く。
10 / 17	整備について話を聞き、作業をする。
10 / 20	実習中間まとめ
10 / 21	午前 塗装のマスクング作業をする。 午後 塗装最終整備に入る。
10 / 22	部品センターに行き、マーシャリングを行う。
10 / 23	お世話になった各班で、ビデオ撮影を依頼され作業をビデオ撮影する。後で、

	作業員が作業のやり方を研究するため。
10 / 24	お世話になった各班で、ビデオ撮影を依頼され作業をビデオ撮影する。後で、作業員が作業のやり方を研究するため。
10 / 27	実習のまとめ GDができるまでを、工場見学風にビデオ撮影をする。各班長に「仕事で気をつけていること、大切なこと」等をインタビューする。ボルトにマジックをつけている理由や工場の床の色分けやヘルメットの色分けなどについてクイズを作る。
10 / 28	撮影したビデオを編集して、マイスターの山崎さんに観てもらう。

「モーターグレーダー（GD）」という大きくて初めて見る機種ができるまでを、少しずつではあるが、全てを体験させてもらった。サブラインから整備、塗装、そして部品センターの仕事まで経験させてもらい、GDができるまでがよく分かった。一つの製品ができるまでには様々な人の作業や手間が必要なことがよく分かり、この経験したことや見たことを子ども達に伝えて行きたいと思った。

Ⅲ 研修成果

1. 企業理念や組織体制について

「品質と信頼性」を追求し、企業価値を「最大化」という企業理念を実現するために、会社全体で真剣に取り組んでいた。現場では、「安全」ということに特に力を入れて、KY（危険・予知能力）テストやヒヤリハット報告書等徹底されていた。また、災害の未然防止の一つとして「4S」＝「整理・整頓・清掃・清潔」の大切さを掲げ、不安定な状態、不安定な行動が続くと災害につながるという危機意識を持っていた。そして、危機回避するためには組織的に取り組む重要性の一つとして、コミュニケーション活動を大切に、「報告（報）・連絡（連）・相談（相）」を徹底していた。これらは教育の現場で危機管理する側面において、十分に参考になると思った。

2. 良い製品を作るために

ホイスト（クレーン）を使っの作業の仕方、作業手順ややり方等をビデオで撮影して、後からそのビデオを観て研究する。まるで、学校現場での研究授業のようであった。それが、安全に確実に良い製品を作るための努力の一つであると思った。向上心を忘れずに、日々研鑽していきたいと思った。

3. 安全に対して

作業の安全に対する意識を持つことの重要さが感じられた。まず、朝の朝礼で必ず服装チェックや体調チェックをする。そして、安全当番日誌を当番が読み、ゼロ災害の目標日数を確認し、今日の安全目標を確認して、班全員で安全唱和をする。そういったことを、毎日繰り返すことで、意識が高まるということを改めて実感することができた。教育の現場でも、繰り返すことが定着につながると強く思った。

4. 教えるということについて

いつもは教える立場だったが、今回一ヶ月間は逆の教えられる立場になり、「はっ」とする場面が何回かあった。一つ目は、作業している途中、言われただけのことをしていてもなかなか作業が覚えられない。しかし、何でこういうことをするのか、どの部分になるのか説明してもらえると初めてする者にとって、わかりやすく納得して作業ができてやりがいがあった。

二つ目は、作業をしていて全く見通しがもてない状態で、「さっきと同じようにやって」と言われ、できなくて困っていると再び教えてくれる人の態度、仕草、口調が気になった。

わからない児童への言葉かけの大切さを改めて実感し、子ども達に接する時の態度や言葉かけを再考するいい機会になった。

5. 教材作りについて

この研修のおかげで、最後の2日間はビデオ教材作りができた。ビデオのねらいは、「GDの一つの製品を作るには、様々な工夫があり、安全第一で作業をしている人達がたくさんいる。」である。たくさんいる人達とは、「ラインで作業している人達」「そのラインを支えているのはサブというラインで作業している人達」「部品等を運ぶ人達」「仕分けをする部品センターの人達」「協力企業で部品を作る人達」がいて、そして一台のGDがようやくできる。というビデオ教材を作ることができた。できたビデオは5年社会科の単元「自動車を作る工業」の導入や、まとめで使いたいと思う。

IV 今後の課題

1. 子ども達に接する姿勢

教えられる立場になり、言葉かけ一つで相手がどのように感じるのか。一つの言葉の大切さや態度、仕草、口調等で受け取り方が変わるということを実感した。子ども達と接する時の姿勢をこの機会に慎重によく考えていきたいと思った。

2. 授業作り

作製したビデオ教材は、80分ほどの長さがあり、このビデオを社会の授業に効果的にどのように生かすかが今後の課題である。現場の人達の思いや苦勞等をどのように分かりやすく、子ども達に伝えられるかがキーポイントだと思っている。ただ、全て自分が体験してきた作業なので、ただの聞き取り調査や取材ではないので、自分の気持ちや言葉で語れることは強みである。

3. 向上する姿勢

物作りに携わる人々もビデオ等で、自分の作業している様子を観て、努力していることを知った。人作りをしている教育者も、分かりやすい授業作り等をよく研究して、向上心を持ってこれからも教育活動していきたい。

最後に、今回の研修でお世話になったコマツ栗津工場の人達には本当によくしてもらい、一ヶ月間無事に怪我もなく充実した毎日を送らせて頂き、本当に感謝しております。現場の大変さを実感し、円高の影響などの話を聞いて、民間企業の厳しさを改めて理解できたと思います。私のこれからの教師生活において、大きな意味を持つ一ヶ月間になったと思います。このような研修する機会を与えて頂いた県教育委員会の方、いない間サポートをしてくれた安宅小学校の先生方、講師の先生とがんばった我がクラスの子ども達、本当にありがとうございました。